

咬合再構成に必要な 矯正学的診断と治療法

日時：平成30年11月11日(日)

講師：佐分利 清信先生



田中 義大 (滋賀県)



第3回関西支部研修会は、佐分利 清信先生（さぶり 歯科・名古屋市中区ご開業）に、咬合再構成に必要な矯正学的診断と治療法という演題にてご講演いただきました。

テーマとしては、歯周-インプラント-補綴-矯正治療の専門治療を有機的に組み合わせた「顎顔面-包括歯科治療システム」について、基本理論、診断及び治療計画の立案から具体的治療法ということで講演していただきました。

午前中は、矯正のセファロ分析の考え方について実際の症例も交えて非常にわかりやすく講義をしていただきました。

診断では「デントフェイシャル-アナリシス」を応用し、一口腔単位は勿論、顎顔面と言う広い観点から各症例を3次元的に分析し、如何に診断し包括的な治療計画を立案するかについていわれていました。

- 骨格異常
- (1) 水平方向(facial symmetry)
 - (2) 垂直方向(facial pattern)
 - (3) 前後方向(facial type)

の3つの視点から、骨格異常を分類し、その組み合わせにより、治療の難易度の分類を行うことができるということでした。

また、その3つに加えて、

- (4) 口唇突出度、顔面軟組織(facial soft tissue esthetics)
- (5) 上下前歯の前後的位置(tooth position)

を総合して分析をして、顎顔面の基本構成要素である、歯と歯列の位置、歯周組織、歯槽骨と骨格、顎関節、顔面軟組織、其々の病態や相互関係を診断していくことが重要であるといわれていました。

午後からは、咬合についての内容が多く、著名な先生方でも意見が分かれるところであり、難しいところではありますが、咬合の概念は、全顎的な治療をするうえでも非常に大切ですし、しっかり勉強していかなければいけないと感じました。

今回の講義での内容を、少しでも患者さんに還元できるように精進していきたいと思っておりますし、講師も言われていた、審美性、機能性、永続性、安定性を追求した治療を提供できるように、日々研鑽に励みたいと思っております。